

図工や勉強に使う「あれ」は玉里で作られたもの??

みなさんも一度は使ったことがありますよね。写真の絵の具。図工の時間やポスター作り，夏休みの宿題の絵でもお世話になったと思います。ところで，この絵の具，どこで作られたか知っていますか？

実は玉里北小学校の近くの「ぺんてる茨城工場」で作られたものなのです。（下の地図を見てください。）箱についている「ぺんてる（Pentel）」のマークはみんな知っていますよね。

工場は一般の人は見学ができないそうです。そのため，あまり知っている人はいないかもしれません。

それでは，わたしたちといっしょにぺんてる茨城工場を探検しましょう。



ぺんてる茨城工場

工場は東京ドームの2倍の広さがあるそうです。(地図を見てください。) 広い工場では、400人が働いています。工場で作っているものは、

- 各種ボールペン(水性・油性・中性)
- ・マーカー
- ・修正具・ぺんてる筆
- ・描画材(絵の具・クレヨン)
- ・のり
- ・消しゴム
- ・化粧品容器



実はたくさんのもので作っています。絵の具だけじゃないんです。クレヨン、サインペン、マッキー、消しゴムも作っています。「サインペン」ってテストの○をつけたりする細字のフェルトペンですよね。でも本当は、ぺんてるの商品名です。太字のサインペンは「マッキー」という名前で販売しています。よく学校では発表やかべ新聞などに使いますよね。(ちなみに太字のフェルトペン「マジック」は寺西化学工業の商品名です。)

工場では、有名な「サインペン」や「マッキー」などの筆記用具が中心で作っています。(主力商品というそうです。) 生産の数が絵の具やクレヨンなど比べて、ダントツに多いということでした。そのため部品の組み立てから、商品を包んだり、入れたり、パッケージしたりすること(個別包装というそうです。)から箱詰めまで、ほぼ機械で自動的に作られています。

一方、絵の具やクレヨン、消しゴムなどは作る数(生産量)が少ないので、機械ではなく人の手で作っているそうです。作る人は長い間仕事を続



けたベテラン（職人さんというそうです）の人が、少しずついいいに調整をしながら作るそうです。特に絵の具やクレヨンは、機械ではなかなか細かい色の調整ができないそうです。ほとんどが手作りだそうです。

まとめ

玉里地区に日本中の小中学生が使っているものを作っている工場があることは、ちょっとじまんしたくなります。また、わたしたちがふだん使っているペンやマッキーもここで作られていると思うと、玉里は日本中の小中学生の役に立っているのだと思います。ここで作られた絵の具やペンが、だれが、どこで使っているかと考えるとわくわくします。大人になって、日本中の人とふれ合ったとき、「これ自分がいたが小学校の近くで作っていたんだよ。」言えたらいいなと思いました。

また、ペンは機械で大量に作っていましたが、絵の具は職人さんが手作りで作っていたのもすごいと思いました。わたしたちの近くの人や先輩も多く働いているので、玉里の人はすごいなあとと思いました。

ほかにもクレハや関東乳業など多くの工場があるので、さらに調べてきたいと思います。